

4U-11

「総合OAシステム」への  
上流CASE適用

百崎 博 井原茂雄 丸金良二  
 児玉和義 矢部眞一 山形毅章  
 西日本旅客鉄道株式会社総合企画本部情報システム室

1. はじめに  
 JR西日本が構築中の鉄道事業における一元化データベースを核としたオンライン・リアルタイム・データベースシステムである「総合OAシステム」の構築に際し、下流CASEの全面導入を行っているが(文献1)、上流CASEの適用事例について紹介する。
2. CASE適用の考え方  
 (1) CASE適用に当たっては、混用戦略「Mix-And-Match CASE Approach」(Gartner)を採用し、効果が期待できる部分から段階的に拡大することとしている。上流CASEツールの具体的な適用方は以下のとおりである。

(表1) 具体的な上流CASEツール適用方

| 段階  | 適用時期         | 対象サブシステム  | 適用内容   | ツール |
|-----|--------------|---|--|-----|
| 1   | 1990・12<br>～ | 全サブシステム   | 用語の全面適用によりデータモデリングを実施(手作業対応)<br><br>・インターフェース設計<br>(データ接続)   | 適用無 |
| 2-1 | 1991・3<br>～  | 施設保守管理  | サブシステムの一部機能(サブサブシステム)に適用。ドキュメントは手作業で対処。  | 適用無 |
| 2-2 | 1991・10<br>～ | 人事管理<br><br>販売実績管理<br><br>施設保守管理<br><br>電気設備保全<br><br>他 | 各サブシステムの一部機能についてエンジニアリング・ワークステーション(EWS)により、データモデル、システムモデルを作成。<br><br>[EWSで作成するダイアグラム]<br>①エンティティ関連図(ERD)<br>②機能情報関連図(DFD)<br>③機能階層図(FC)<br>④計算機処理フロー<br>⑤プログラム網図 | 適用有 |

Developing of Integrated Office Automation Systems with the upper CASE

Hiroshi MOMOSAKI, Shigeo IHARA, Ryoji MARUKANE, Kazuyoshi KODAMA,  
 Shin-ichi YABE, Takeaki YAMAGATA

West Japan Railway Company

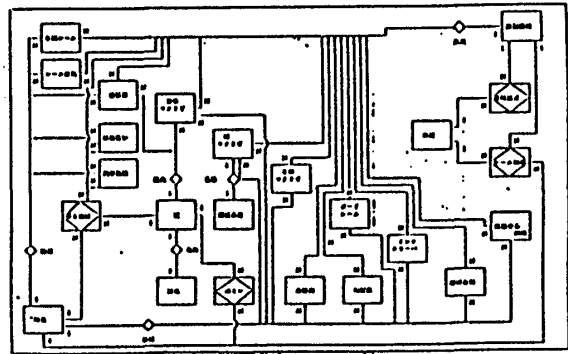
(2) 適用の目的

- 7. ソフトウェア品質の確保  
特に多くのサブシステム相互のインタフェース確認
- 4. 使用開始後の運用の容易性の確保
- 9. 利用部門との情報共有化の促進

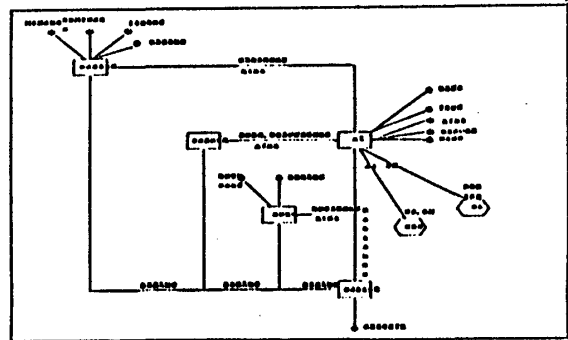
3. 今後の課題

上流CASE適用サブシステムは順次拡大を図ってきたが、今後は第2段階までの実績を踏まえ他のサブシステムへの適用を図ることとしたい。

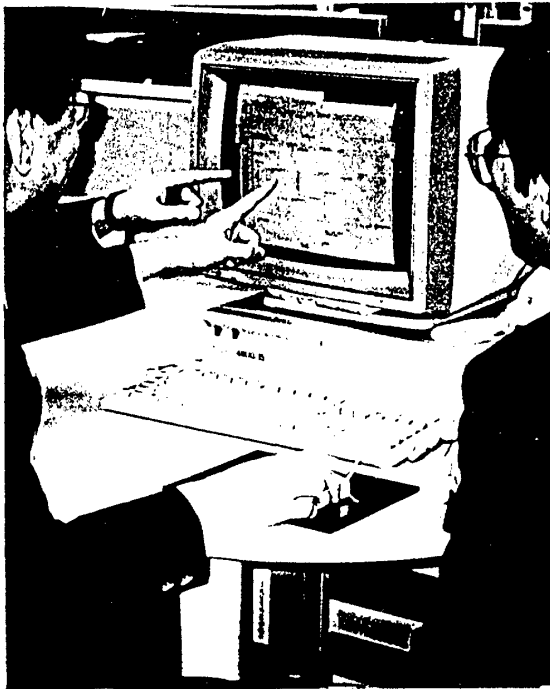
関係各位の御指導、御助言をお願いする次第である。



(図1) エンティティ関係図の作成例



(図2) 機能情報関連図の作成例



EWSを用い、利用者を含めたワークベンチ情景

【参考文献】

- (1) 山形、矢部他『下流CASEによる「総合OAシステム」の開発』  
(第43回平成3年後期) 情報大子稿集 3C-8
- (2) 山形、矢部『利用者指向手法による「総合OAシステム」の開発』  
平成3年11月「利用者指向の情報システム」シンポジウム